

**心房細動の起源として上大静脈の triggered activity の関与が  
推測された一症例**

京都大学医学部附属病院 循環器内科 1)

京都医療センター 循環器内科 2)

中尾 哲史 1)、静田 聡 1)、早野 護 1)、土井 孝浩 1)、根津 知行 1)

山口 孝之 1)、塚本 学 1)、西山 慶 1)、牧山 武 1)、赤尾 昌治 2)

塩井 哲雄 1)、尾野 亘 1)、木村 剛 1)

【症例】61 歳男性【現病歴】数年前より動悸あり、心房細動と診断されていた。薬物治療に抵抗性で、頻度の増加と症状の増悪を認めためカテーテルアブレーションを施行した。

【カテーテル所見】心腔内に電極カテーテルを留置し、左肺静脈から拡大肺静脈隔離を開始した。隔離開始時は洞調律であったが、通電中に上大静脈起源の心房頻拍が出現。そのまま心房細動に移行した。両側肺静脈隔離を施行し、次に上大静脈の隔離を施行。すると心房細動は停止したが、上大静脈内の心房細動は継続した。数十秒後に上大静脈内の心房細動も自然停止した。上大静脈内に留置した lasso カテーテルより電気刺激を1発行うと、上大静脈内で心房細動が誘発された。上大静脈内の様々な場所から同様に1発のみの刺激で、再現性をもって心房細動が誘発された。以上から、上大静脈内の triggered activity が、心房細動の発症機序に濃厚に関与していることが推測された。

【結語】心房細動の起源として上大静脈の triggered activity の関与が推測された症例を経験したので、文献的考察を加えて報告する。